



GLOBAL MAPPING NEWSLETTER 43

ISCGM ワークショップ タイでクーデターの中で開催

ISCGM 事務局 坂部真一



UNOOSA デビッド・スティープンス氏
基調講演

地球地図国際運営委員会 (ISCGM) は 9 月 21 日に、タイ国バンコク市において地理情報の利活用促進を目的としたワークショップを開催し、政策決定者等が災害管理や持続可能な開発の実現のために地理情報をより効果的に活用できるよう、ISCGM や NMO が様々な取り組みを実施するよう努めるべきであるとの結論に至りました。

本ワークショップは、「大規模災害軽減及び持続可能な開発実現のための地理情報の活用」をテーマとし、9 月 18 日～22 日に開催された第 17 回国連アジア太平洋地域地図学会議 (UNRCC-AP) の一部として、ISCGM が国際地図学協会 (ICA) 及びアジア太平洋 GIS 基盤常置委員会 (PCGIAP) と共に開催したものです。約 20 カ国から 50 名程度が参加し、各国及び国際機関から地理情報の利活用事例の紹介と今後取り組むべき施策の提案に関する発表が数多くなされました。ワークショップの最後に決議を取りまとめ、第 17 回 UNRCC-AP 総会へ提案されました。

発表した方は、以下の通りです。

Fraser Taylor 氏 (ISCGM) - ワークショップ議長
David Stevens 氏 (UNOOSA)
John Trinder 氏 (ISPRS)
Naoki Minamiguchi 氏 (FAO)
Wang Liang 氏 (中国)
Vladimir Tikunov 氏 (ICA)
Saranpong Pramsane 氏 (タイ国王立測量局)
Muhammad Shafiqul Islam 氏
(バングラデシュ国測量局)

Gholam Reza Fallahi 氏
(イラン国国立地図センター)
丸山弘通氏 (日本国国土地理院)
Milan Konecney 氏 (ICA)
Bebas Purnawan 氏 (PCGIAP)

取りまとめられた決議は以下の通りです。これは UNRCC-AP 総会に提案され、多くが第 17 回 UNRCC-AP 決議に含められました。

「大規模災害軽減及び持続可能な開発実現のための地理情報の活用」に関するワークショップ決議
2006 年 9 月 21 日 (木曜日)、タイ・バンコク

PCGIAP、NMO、及び地理情報整備関係機関は、政策決定者等が災害管理や、環境や持続可能な開発の政策決定の実現のために地理情報をより効果的に活用するよう、以下の取り組みを実施するよう求められる。

1. NMO は、国内の他の関係機関と連携し、
 - (ア) PCGIAP と協力し地域の地殻活動の特徴を把握するため測地測量を実施すること。
 - (イ) 過去の災害記録を収集し災害予測図を作成し、災害発生直後には被災地の地理情報を収集し提供するなど災害監視、管理を支援すること。
 - (ウ) 適切な地理情報の整備、適切なデータベースを整備し、環境に影響を及ぼすすべての人間活動へこれを活用するなかで、最良の事例に従い環境や持続可能な開発の政策決定の実現に資すること。
2. PCGIAP は、NMO と連携し、
 - (ア) 災害管理のため、被災地の地理情報や災害情報を収集及び提供すること。
 - (イ) 持続可能な開発や環境政策の決定の実現のために、地域の地理情報整備状況を含めた地理情報を最良の事例について収集提供し利用すること。
 - (ウ) 国際機関の既存の作業部会の活動や、

ISCGM ならびに UNOOSA が着手した SPIDER などの地理情報整備の取り組みなどとの調整により災害監視や持続可能な開発の管理のための地理情報の幅広い利用を促進すること。

3. ISCGM など地理情報整備に取り組む機関は、地理情報の利用者である様々な国連プログラムや GEO（地球観測作業部会）などの地域や全球の取り組みと協力し、地理情報の利用を促進すべきこと。

4. ICA、ISPRS やその他の JBGIS 参加機関など、地理情報関連の機関は、政策決定者が地理情報を利用し、その利点についての認識を高めるよう努

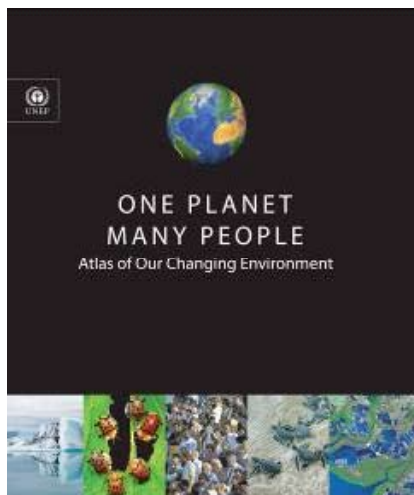
めること。

今後 ISCGM は、世界市民の一人ひとりが安心して生活できるような環境作りに貢献するために、各国 NMO や関係機関と連携し、地球地図プロジェクトの推進だけでなく、関連プロジェクトにも一層協力していくつもりです。

なお、9 月 19 日夜に発生したクーデターの影響で、本ワークショップの開催が 1 日遅れ、かつ時間が半日になってしまいました。ワークショップの成功にご協力頂いた関係者に感謝申し上げます。

教育目的に公開された UNEP アトラスのパワーポイント

アシュビンドウ・シン博士
UNEP-DEWA 地域コーディネーター



国連環境計画 (UNEP) は、2005 年 6 月に、NASA、米国地質調査所 (USGS) 及びメリーランド大学と協力し、ひとつの地球・多くの人々：私たちの変化する環境を立ち上げました。このアトラスでは、科学的に検証できる情報を最新のリモートセンシング技術により総合的に視覚表現し、地球をとりまく劇的な環境変動を際立たせています。このアトラスは、環境のホットスポットや環境問題を盛り込み、主に過去 30 年にわたり撮影された衛星画像をもとに、人間の行動や地球物理学的な活動が、世界の様々な場所をどのように変えたかについて表しています。

「ひとつの地球・多くの人々：私たちの変化する環境」では、地球環境変動について、科学的に検証できる情報を最新のリモートセンシング技術によって総合的に視覚表現しています。

405 枚の MS パワーポイントのスライド資料は以下に述べる 11 の現代の変動するテーマ：

- ・ 地球の紹介
- ・ 人々と地球
- ・ 大気
- ・ 沿岸地域
- ・ 都市域
- ・ 河川・湖沼
- ・ 森林
- ・ 耕地
- ・ 草地
- ・ ツンドラ・極地
- ・ 災害

及び 6 つの地理的地域：

- ・ アフリカ
- ・ アジア・太平洋
- ・ ヨーロッパ
- ・ ラテンアメリカ
- ・ 北アメリカ
- ・ 極地

に分けられています。

これらのスライドは無料で以下の場所で提供されています。

<<http://www.na.unep.net/OnePlanetManyPeople/powerpoints.html>>

この資料は、環境のホットスポットや環境問題を取り上げ、主に過去 30 年にわたり撮影された衛星画像をもとに、人間の行動や地球物理学的な活

動が、世界の様々な場所をどのように変えたかについて表しています。例として、北極の氷の縮小、溶けつつある氷河、ラスベガスなどの都市の拡大、アマゾンの森林破壊及びアラル海やチャド湖の減水などがあげられます。334 ページの本装丁のアトラスに掲載された衛星画像は、パワーポイント形式で納められ、自然現象や人間活動に起因する変動を視覚的に表現するためにこの資料を用いた

いと考えている、環境政策決定関係者、非政府組織、民間、学界、教師や一般市民が利用しやすいようになっています。

シン博士は地球地図プロジェクトを、初期から支援しています。

第17回国連アジア太平洋地域地図会議 (UNRCC-AP)

2006年9月18日～22日

宮川康平
国土地理院

第17回国連アジア太平洋地域地図会議 (UNRCC-AP) はタイ・バンコクの国連会議センター (UNCC) で9月18日～22日に開催されました。本会議の主題は「ミレニアム開発の目標の達成に向けた災害管理及び持続可能な開発に資する地理情報の構築」でした。30カ国から210名が参加しました。会議は本会議、2つの同時開催ワークショップと3つの同時開催委員会により構成されました。

ピーター・ホランド氏が開会を宣言し、続いてポール・チェン国連統計部長とタイ国科学技術大臣の挨拶がありました。災害管理や政策決定のためのGISの役割が益々重要になっていることが述べられました。

開会の挨拶とそれに続く事務的手続きの後、招待講演者が全球・地域・国ごとの課題や最良の事例や利用について発表を行いました。ISCGMのD. R. フレイザー・テイラー委員長はISCGMの現状や災害管理のための地球地図の重要性などについて発表しました。

三日目は、UNRCCの近くで起きたタイのクーデターのために議事は中止され、予定された議題項目は延期されました。

四日目の午前中に同時開催の2つのワークショップが行われ、そのうち1つはPCGIAP、ICA及びISCGMの協力により開催されました。そのワークショップは「大規模災害軽減及び持続可能な開発実現のための地理情報の活用」に焦点をあて、他のワークショップは「国土空間データ基盤における人工及び自然環境データベースの統合」を取り上げました。各発表者は、国ごとのGISの取り組みや、洪水や人口など全球的な問題に対処する

ための地理データやリモートセンシング・データの利用について述べました。

ワークショップの後、3つの委員会が、それぞれのテーマ（「災害管理のためのGIS、リモートセンシング及び測地」、「アジア・太平洋地域における空間データ基盤の人材育成及びその整備」、及び「地理空間基盤データの収集、管理及び普及」）により同時に開催されました。次のUNRCCAP会議までの今後の活動や様々な課題が熱心に審議され、審議の成果が報告されました。

最終日には、再度本会議が行われ以下の決議が採択されました。

1. 大規模災害の軽減のための地理情報
2. 地域測地
3. 海洋管理 - 空間的側面
4. 電子政府を支えるSDI
5. 基盤データ
6. 東ティモールのSDI
7. 第18回国連アジア太平洋地域地図会議



会議

第12回アジア太平洋地域 GIS 基盤常置委員会

宮川康平

前 PCGIAP 事務局

第12回アジア太平洋地域 GIS 基盤常置委員会 (PCGIAP) は、第17回国連アジア太平洋地域地図会議と併せて開催されました。9月18日のPCGIAP理事会において、UNRCC-APの詳細な議事項目が確認され、PCGIAP事務局によりPCGIAP理事の指名が公式に発表されました。PCGIAP会合は22日に

開催され、PCGIAP理事の投票により、新しい理事として候補10カ国から9カ国が選出されました。新理事は以下のとおりです。次回のPCGIAP会合は2007年6月頃に韓国で開催されるよう、理事会の新理事により決定されました。

委員長	オーストラリア	ピーター・ホランド氏
副委員長	日本	矢口彰氏
事務局長	中国	リ・ウェイセン氏
理事	ブルネイダルサラム	モハメド・ジャミル・モハメド・アリ氏
	フィジー	バルマ・ナンド氏
	インド	M. ゴパル・ラオ少将
	インドネシア	ベバス・プルナワン氏
	韓国	ソーン・ボン・ギョン氏
	マレーシア	ハミド・アリ氏
	フィリピン	ディオニー・ベンチュラ氏
	ロシア連邦	アレキサンダー・ブルサコフ氏
	シンガポール	ソー・ケン・ペン氏



会合

事務局から

・事務局13回ISCGM会合は、2006年11月11日、チリ・サンティアゴのIGMのビルにおいて開催されます。本会合に先立ち、ISCGM事務局が運営する地球地図セッションが、GSDI9会議の一部として11月8日11:00～12:30に開催されます。ISCGM事務局や米州地域の国々からの発表が予定されています。

・地球地図プロジェクトには現在165カ国・地域が参加しています。新たに参加した機関とそれぞれの参加日は、セイシェル・国土利用居住環境省地理情報部地理情報システムセンター(7月3日)、パキスタン測量局(8月18日)及びクック諸島工務省測量土地情報局(8月22日)です。

重要なお知らせ

基盤地理データに関する調査が、ISCGMからのGEOの取り組みへの貢献と一環として現在行われています。ISCGM事務局では地球地図プロジェクト参加国と関連機関に本調査への協力を依頼しました。回答を未提出の機関は出来るだけ早く提出していただけますようお願いいたします。皆様のご協力に感謝します。

地球地図及び関連の会議

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2006年

- 11月6日～10日、チリ・サンティアゴ
第9回GSDI会議
- 11月11日、チリ・サンティアゴ
第13回ISCGM会合
- 11月11日～15日、サウジアラビア・リヤド
第23回ISO/TC211本会議

2007年

- 5月31日～6月1日、イタリア・ローマ
第24回ISO/TC211本会議
- 7月15日～20日、英国ケンブリッジ
ケンブリッジ会議

編集・発行：地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番 国土地理院

Tel: 029-864-6910 Fax: 029-864-6923

ホームページ: <http://www.iscgm.org/>

E-mail: sec@iscgm.org